

# 岡山大学工学部 同窓会報 第28号

2016年 8月 1日

編集・発行 / 岡山大学工学部同窓会事務局  
〒700-8530 岡山市北区津島中3-1-1 岡山大学新技術研究センター内 TEL・FAX (086)255-8311  
メールアドレス ofst@cc.okayama-u.ac.jp  
ホームページ(URL) <http://www.eng-okayama-u.ac.jp/alumni/index.html>  
印刷所 / 小野高速印刷㈱ 〒670-0933 姫路市平野町62 ☎ 079(281)8837

## TOPICS

挨拶 (工学部長、代表幹事、退職者)	1～
学科近況	5～
スーパーグローバル ホームカミングデイ	10～
職場紹介、各支部報告	12～
新任・昇任・退職等教員紹介	17
寄附者一覧	18
会計報告	19
同窓会事務局より	20

## 岡山大学および工学部の現状 (2016)

工学部長 富田 栄二



平成28年度から4学期制になり、また、授業時間が60分単位となりました。これは、今まで90分授業を15回して2単位であったものが、60分授業を30回して2単位になります。授業時間は増加しますが、内容は

基本的に増えません。その増加した時間は演習を増やして理解度を増すようにするとか、今までよりもゆっくりと進むことができるようになります。今まで一方的であった授業を、学生自らも手足や頭を使うことになるので、教育効果が増し、実効的な学びを実践することができると期待されています。

以下、工学部における最近の活動状況および平成28年度の目標等をご紹介します。

社会貢献に関しては、例年通り、学生フォーミュラやロボコン活動、出前講義、各先生方の審議会や学会での委員会活動、創造工学センター部門による小中学生向けの各種行事など、いろいろとありますが、これらは岡山大学工学部を広く社会に認知してもらい、その存在感を示すという意味で、まさに広報活動につながっています。幅広い広報活動が受験生の確保にも結びつきます。平成28年8月下旬に高島屋の8階フロアにて、日本化学会中四国支部と合同で、昨年同様、小学生向けのイベントを行います。

今年の夏から、国際交流には力を入れます。同済大学の機械系と化学系、台湾国立大学や長庚大学、浙江工業大学と、学生および教員の交流が

始まります。さらに現在、ミシガン大学、ウエイン州立大学、ピッツバーグ大学など米国のいくつかの大学とも、これから受入あるいは派遣の話を進めていきます。そのほかにも個々の先生のレベルではすでにいくつも実績があります。

一方、大学の予算は年々厳しさを増しており、平成28年度からは、施設の有効利用を図るため、スペースチャージが導入されます。光熱水料には環境賦課金が導入され、実質的に料金が增加する予定です。また、学生の留学や奨学金確保のため、寄付金には今まで10%のオーバーヘッドが20%に増加します。運営費交付金、すなわち、大学から与えられる予算は激減しますので、教員として研究室を維持していくためには、今まで以上に外部資金の確保が必要不可欠な状況です。

工学部を卒業した学生は年々増えています。工学部同窓会と工学部がお互いの距離をもっと短くするようにしたいものです。すなわち、工学部同窓会が、岡山大学工学部の教育、研究、社会貢献にも、もっと深く、積極的に関与することができるような仕組みを一緒に構築していきたいと考えております。その取り組みの一つとして、経済学部との合同授業である「実践コミュニケーション論」において、平成27年度から工学部同窓会から2名の方に非常勤講師として参画していただいています。また、平成28年度は「ものづくり経営論」にも、非常勤講師として1名、加わっていただいています。同窓会と工学部の結びつきが、いろいろな場面で、ますます強くなることを願っております。

## 工学部同窓会からのご挨拶

工学部同窓会代表幹事 酒井 貴志 (1970年卒)



岡山大学が昭和24年(1949年)5月31日に、医、人文(後の法文)、教育、理、農学部の5学部で新制大学として創立され、それに11年遅れて、昭和35年(1960年)4月1日に工学

部が機械工学科と工業化学科の2学科(定員各40名)で設立されました。戦後の財政的に困難な時期にあり、当時の文部省には旧制大学や専門学校等の母体の無いところには学部の新設は認めないとの基本方針があったため、その新設には岡山県の産官学挙げての大変な苦勞があったことが「岡山大学工学部20年史」(昭和55年発刊)に記されています。水島地区を初めとする県内企業や自治体からの大きな財政的な支援があったことが推進力となり、新制大学で初めて母体の無いところに設立された工学部となりました。第一期生の入学試験倍率は15倍を超え、外国人の応募も9名あったと記されています。

以来、56年が経過し、第一期生は古希から喜寿への途上にあり、続く卒業生は20,000人を超えています。工学部同窓会は、多種多様な場所での仕事や人生を経験した(している)OBと、今春、希望をもって入学した新入生を含めた幅広い年代からなる組織となっています。同窓会規約からその活動目的は、相互の親睦と工学部の発展に寄与するとされていますが、現役を卒業した多くのOBを擁する組織として、さらに守備範囲が広がっているのではないかと考えています。

さて、工学部同窓会は、教員、学生、卒業生が正会員です。その活動としては、まず、①会員の名簿整備を5年毎に行っており、②年1回の会報の発行による学内外の情報交換、③10月の大学のスーパーグローバルホームカミングデーでの同

窓会総会、報告会、懇親会、④学部行事の支援等が主な取り組みとなっています。さらに、⑤各学科同窓会で、学生の就職支援、卒業生による企業紹介などの活動が行われています。そして、これらの活動を進めるために、⑥会費をお願いすること一主として入学時の会費と会員からの寄付金—が大きな活動のポイントでもあります。これらは、工学部の現職の若手教員からなる学内幹事とそれ以外の学外幹事によって進められていますが、多忙な仕事の中での大変なご苦勞に深く感謝しています。

会費は、岡山大学 Alumni(全学同窓会)会費10,000円と工学部同窓会会費10,000円の合計20,000円を入学時にお願いしています。卒業生の増加に伴い必要経費は増える一方で、財政的には厳しい状況にありますが、卒業生、教職員の皆様からは多額のご寄付をお寄せいただいております(会計決算欄参照)、ご支援に厚くお礼申し上げます。

工学部同窓会の支部活動も活発になって来ています。現在、関東支部、関西支部、岡山支部がありますが、各支部の活動については、支部活動報告欄をご覧ください。支部活動が活発に行われ、さらに、新しい支部が生まれることを支援していきたいと思っています。

今年は、同窓会名簿を改定する年となっていますが、今後は諸般の事情で製本された紙ベースでの名簿は作らないこととしました。但し、電子情報の更新は行っていく必要があります。名簿の管理を依頼している(株)小野高速印刷に不明者の連絡先調査を依頼していますので、連絡等がありましたらぜひともご協力をお願い致します。また、今後、必要な名簿の検索や出力に関しては同窓会にご連絡ください。

最後になりましたが、皆様のご健勝とご活躍を心からお祈りしています。

# 退職にあたって

## 退職にあたって

電気通信系学科 秦 正治



中学生になった頃から「将来は無線通信に携わりたい」という思いがあった私は、1975年4月に日本電信電話公社横須賀電気通信研究所に入所し、移动通信研究室に配属されましたが、「将来ど

うなるか分からないが移动通信の研究はさせておこう」という位置付けの研究所内でもマイナーな研究室でした。しかし、研究室の雰囲気はその状況からナニクソの精神が旺盛で、限られた予算ながら技術検討や方式設計が自由にできたので、試験装置を試作してフィールド実験でその特性検証し、特許と論文を書きまくるといった充実した日々を過ごすことができました。

その間に電電公社は民営化されてNTTになり、さらに1992年7月にNTT移动通信網株式会社（現NTTドコモ）が設立されましたが、NTT本体の縛りがなくなることから、ドコモの研究開発部に喜んで転籍しました。また、国内外の移动通信方式の標準化にも従事し、日本代表団員として精力的に各国代表とわたりあい、第三世代（IMT2000）方式の国際標準化を推し進めました。この頃になると、セルラ方式が通信インフラになる状況が見えてきたことと、それまでの実用化と波乱万丈の経験から、「大学の先生になって、実社会で即戦力になる技術者を育てたい」という気持ちが沸き起こり、2001年3月末にドコモを退職し、同年4月に岡山大学大学院自然科学研究科に着任しました。

今から15年前の大学は、当時は仕方がなかったと思いますが、「企業では考えられない唯我独尊の状況」が率直な感想でした。しかし、国立大学が法人化される頃からの岡大の取組みは他大学に比べて迅速で、教職員の個人評価などが始まってやっと組織として機能するようになったと思います。さらに社会や国際的な繋がりを追求するようになり、ようやく国立大学としての存在意識が定着してきたと感じます。電電公社が民営化され

る頃に通ってきた道を歩んできたと言った感じがです。

さて、岡大に着任してからですが、中四国には移动通信の講義を行っている大学が全くないことに気が付きました。市内の大きな書店に行っても通信関連の書籍が全く置いてないという嘆かわしい状況でした。逆にこれはこの分野の人材を岡大から社会に送り出せることも意味します。

このため、移动通信の講義では基本事項だけでなく実用化で考慮すべき点などを教え、卒論・修論では検討プロセスを重視するよう求めました。修士は学会で一人2件以上必ず発表することをノルマにし、発表練習では就活面接の訓練を兼ねて質問攻めにしました。ただし、研究室の懇親会は2か月に1回ほど居酒屋で行いました。おかげで毎年多くの研究室OB・OGが帰省などの折に研究室にやって来ており、東京や広島で懇親会も開いてくれ、先生冥利に尽きると言ったところです。

研究については、競争的資金を取って来て医学部の公文先生たちと今日の医工連携の走りとなる携帯機と岡山情報ハイウェイを活用した遠隔医療に関するシステム開発検討など、共同研究では新たな無線アクセス方式や某自動車会社のカーナビに地デジエリアを示すソフトの開発など、調査検討では総務省や岡山県との災害対策用無線の実験や巡視船を使った船舶基地局試験、さらには技術基準作成のためのフィールド試験や周波数獲得戦略案の策定など、科研については他大学と組んで通信と放送の融合に関する電波伝搬特性の解明や傾斜地エリアに対する伝搬損失推定式の確立など、現場に密着し実用化に向けた数多くの検討を行うことができ、とても楽しい研究生活を送らせていただきました。共に苦勞した関係者の方々に改めて感謝いたします。

以上、退職にあたって私の会社員と教員としての41年間にわたる歩みの概要について紹介しました。移动通信の黎明期や大学改革の始まりに立ち会うことができ、大変面白い時代を過ごすことができたと思っています。終わりに、岡山大学のこれからの発展と皆様のご健勝・ご活躍を祈念いたします。ありがとうございました。

## 岡山大学に定年まで勤務して

機械システム系学科 皿井 孝明

本年3月末日で、41年間勤務した岡山大学工学部を定年退職しました。工学部に任用されたのは昭和50年4月であり、機械工学科の材料力学研究室の所属でした。最初に担当した講義は、機械工学、材料力学に関する実験や演習であり、研究はX線応力測定、多結晶金属材料の微視的変形、マイクロメカニクスなどについて取り組みました。周囲の方々に支えられ、実験や解析を研究室の学生とともに行いましたが、X線の取り扱いには特に注意が必要でした。また、解析は計算機センターを利用しましたが、当時はとても新鮮に思われました。X線応力測定は残留応力の非破壊的な測定が可能のため、企業との共同研究も多く、大きなパイプなどの残留応力を数多く測定しました。当時の機械工学科は現在の機械システム系学科に比較して学生定員が少なく、研究室も家庭的な雰囲気があり、学生との研究生活はとても充実したものでした。

教育面では、材料力学関係の講義を担当しましたが、非常勤講師として学内では教育学部、学外では詫間電波工業高等専門学校（現在は香川高等専門学校）、津山工業高等専門学校、岡山県立大学で貴重な体験をさせていただきました。詫間電波高専の所在地は香川県の西部であり、瀬戸大橋が開通した年に一年間、電子制御工学科の1期生に講義したことは記憶に残る思い出の一つです。学科の新設時は教員体制が不十分なためか依頼が多く、工学部にシステム工学科が誕生したときにも1、2期生の講義を担当しました。このような講義を受けた学生が機械工学科、機械システム系学科の卒業生に遭遇したときに、私の姓が珍しいため、話題になるのを聞くと長年にわたり教育に携わってきたことを実感します。

その後、平成に年号が変わった頃から、生体に関する研究に興味に移るようになりました。日本機械学会にはバイオエンジニアリング部門があり、部門としては大きくありませんが、登録者数は増加しています。この分野は工学と医学の学際領域であり、専門の材料力学を生体の力学、バイオメカニクスへ応用することは、これまでの知識を基に研究をさらに展開できる新たな挑戦のように思われました。バイオメカニクスの研究には材料力学の他に、熱力学や流体力学など機械工学の

専門分野が数多く含まれ、分野を横断した研究も行われています。生体に関する研究を始めて医学系の研究者と議論する機会が増え、研究打ち合わせを整形外科の医師と工学部や医局などで行いました。また、人工関節の開発や設計の支援を通じて、産学連携の研究に携われたことも非常に有意義でした。

材料力学研究室はその後、材料強度学研究室と名称が変更されましたが、工学部の創設初期からある研究室の一つで、在籍した学生もかなりの数に上ります。残念なご報告ですが、本研究室はこの3月末日で長い歴史に幕を閉じました。研究室の歩みを思い出しながら実験装置などの整理を行いました。その際には機械システム系学科をはじめ、他学科の教職員や事務部、当時研究室に在籍した学生諸君に大変お世話になりました。この紙面をお借りして、厚くお礼申し上げます。研究室が消滅しても、在籍した教職員や卒業生の絆が途絶えることはないの、工学部同窓会とのつながりを今後も大切に継続したいと思います。

工学部で長年にわたり勤務させて頂き、大過なく定年退職を迎えることができました。その間に幾つか心に残る研究や教育ができたのも皆様のご支援の賜と深く感謝しています。最後に、工学部および同窓会のご発展と同窓生の皆様のご活躍、ご健勝を心からお祈りいたします。





## 特殊加工学研究室 第5回同窓会報告

世話役代表  
林 泰弘

平成28年3月19日にピュアリティまきびにおいて特殊加工学研究室第5回同窓会を開催し、恩師と同窓生の計52名が集いました。恩師の先生方からのおことば、同窓生からの近況ばなし、研究室や工学部の近況紹介とともに、懐かしい友との再会を通じて楽しいひとときを過ごしました。また、機械系同窓会より本会への助成を賜り、通信費など準備段階から有益な活動を実施できました。この場を借りて御礼申し上げますとともに、今後も継続した助成活動を期待致します。



集合写真



受付にて



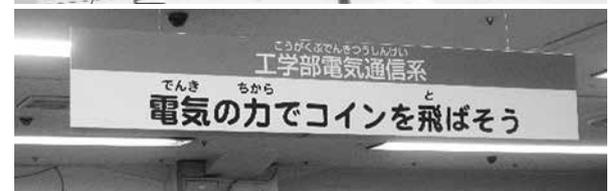
会場内にて

## 電気通信系学科の 近況報告

電気通信系学科・学科長  
金 錫範

同窓生の皆様、ならびに旧教職員の皆様におかれましては、ますますのご健勝のこととお慶び申し上げます。昨年の同窓会会報の近況報告以後の当学科の状況について報告致します。

本年度から大学改革の一環として60分授業・4学期制が実施されることになりました。当学科では、新しい授業体制の利点を最大限に生かすために若い先生たちを中心に徹底的に準備して来ましたので、その成果と問題点などが問われる年になります。その上、今後の対応についても最善を尽くしてまいります。また、現在の2コースを平成29年度に3コースに再編します。さらに、研究室の配属においてはコース区分をなくすことで、出来るかぎり学生の希望通りに研究室が選べるように準備を進めており、平成30年の配属から実施する予定です。去年の夏(7月24日～27日)には、高島屋で開催されたサイエンス実感フェア(4日間の来場者は、約3000人)に当学科から二つのテーマ(光糸電話とディスクリンチャー)を出展しました。大盛況で終わりましたので、当学科の良い宣伝になったと思っております(写真)。





写真：2015年サイエンス実感フェア（高島屋）

次に、教員の移動について報告します。2016年3月に秦正治先生が定年退職されまして、当大学の名誉教授になりました。2015年10月に、栗林稔准教授（分散システム構成学）と羽田真毅助教（ナノデバイス・材料物性学）が着任、2016年3月と4月に、植田浩史准教授（超電導応用工学）と上原一浩教授（モバイル通信学）が新しく着任されました。引き続き大学の改革が求められている状況で当学科の教職員たちは新しく着任された教員と共に力を合わせ、最善を尽くして対応していきます。最後になりましたが、同窓生の皆様には、様々な面でご支援とご協力をお願いすると共に、皆様のご健康を祈念し、益々のご活躍を期待いたします。

## 平成27年度 岡山大学工学部 電気通信系学科同窓会の報告

電気通信系学科  
佐藤 稔

### キャリア形成のための意見交換会を開催

電気通信系学科同窓会の主催で、2015年10月17日（土）、電気通信系学科卒業生とのキャリア形成のための意見交換会を、工学部講義室にて開催しました。この意見交換会は201年度より毎年開催しており、今回が第6回となります。目的は、電気通信系学科の学生が将来のキャリア形成を考えるための材料提供です。講師として、卒業生の藤谷崇弘、河野広貴、佐藤友紺、鴨井貴弘、高濱雄一、竹田陽一の各氏が参加し、後輩たちに業務内容や就職活動の体験談を紹介するとともに、社会人としての経験を踏まえたアドバイスをしました。学生からもたくさん質問が出され活発な意見交換の場となりました。

意見交換会終了後には、ケータリング形式の昼食会を開催しました。卒業生、学生ともにさらに打ち解けた雰囲気の中で、学生達は同じ学科の身近な先輩達に、会社での業務や社会人としての生活等に関して具体的な質問を積極的にしていました。



### 就活生と卒業生の懇親会を共催

電気通信系学科と学科同窓会の共催で、2016年2月22日（月）、就活生と卒業生の懇親会を開催しました。就職活動を控えた修士1年生と学部3年生を対象とし、学科卒業生が在籍する企業27社より会社説明をして頂きました。



会場には大学生協の食堂を使用し、ビュッフェ形式の食事をしながら学生が各社のテーブルを訪問する形式を採りました。先輩と後輩という心理的な近さもあり、学生からは、大手企業から名前を知らなかった企業まで幅広い企業について詳しい情報を得られたと、卒業生からは一般の企業説明会

より熱心に説明を聞いてもらえたと好評でした。この懇親会は昨年度に第1回を開催し、今回が2回目の開催となります。今回説明のため企業より派遣された卒業生の中には、今年のこの会で初めて今の会社を知り、説明を聞いて興味を持ち就職したという人もいました。電気通信系学科の学生と企業との良いマッチングの場となっているようです。

## 佐野・古賀・豊田研究室同窓会を開催

電気通信系学科  
五百旗頭 健吾

佐野・古賀・豊田研究室(旧電子、旧電気電子、旧通信ネットワーク工学科、現電気通信系学科)の同窓会を、5年ぶりに2015年10月17日に岡山ロイヤルホテルにて開催しました。2010年2月にご退職された古賀隆治先生、既に転出され現在は京都大教授の和田修己先生もご参加され、上は1975年の卒業生から下は昨年度の卒業生まで44名、現学部生が3名の総勢50名が参加しました。

久しぶりに顔を合わせた同窓生同士で近況を交換したほか、手がけている事業の紹介や、初対面の同窓生と互いに自己紹介し情報交換するなど、非常に有意義な会となりました。



## 情報系学科の近況

情報系学科・学科長  
門田 暁人

情報系学科の近況についてご報告申し上げます。

教育については、60分授業・4学期制の導入に伴い、平成28年4月よりカリキュラムが一新されました。コンピュータ科学基礎1、2、ソフトウェア設計、ソフトウェア工学などの科目が新設され、既存の科目も内容の見直しと再編成が行われました。特に、コンピュータ科学基礎1、2は、新入生を対象とした新たな内容となっており、学生は情報系学科の各研究室を訪問し、研究に関するグループワークを行い、成果発表を行います。大学とは受け身ではなく自ら学ぶ場であることを体験してもらうことで、新入生に勉学のモチベーションを高めるとともに、研究の一端に触れてもらうことで、将来の研究室配属を見据えて授業に臨んでもらうことを期待しています。また、大学院の方では、本年度より、多数の大学が連携する実践セキュリティ人材育成コース(SecCap)に参加し、他大学にて開講される情報セキュリティPBL(Project Based Learning)演習の受講が可能となりました。

学生の就職・進学については、学科への求人数が年々増加しています。今年度は昨年度と比べても3割以上増えており、幅広い分野において情報系技術者の需要の強さを感じています。今年も多数のOB・OGの方々に、リクルーターとして学科を訪問いただきました。一方、進学状況としては、昨年度は学部学生の約60%が大学院博士前期(修士)課程に進学しました。

教員の異動はなく、昨年同様、情報系学科の教員は、理事1名(兼務)、教授6名、准教授3名、

講師3名、助教6名、助手1名の20名となっています。

今年も10月22日(土)に、岡山大学および情報系学科にてスーパーグローバルホームカミングデーのイベントが予定されておりますので、同窓生並びに旧教職員の皆様にはぜひお立ち寄りいただけたらと思います。皆さまには、引き続きご支援のほど、お願い申し上げますとともに、ますますのご活躍を祈念申し上げます。

## 化学生命系学科(旧物質応用化学科・旧生物機能工学科)の近況報告

化学生命系学科・学科長  
小野 努

同窓生並びに旧教職員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。学科を代表し、近況についてご報告します。

前回の同窓会報(第27号)以降の人事異動は以下のとおりです。平成28年3月に小郷義久技術専門員が定年退職され、現在はフルタイムでの再雇用として引き続き本学科にてこれまで同様に勤務されています。また、平成26年4月に狩野旬准教授(無機材料科学←自然科学研究科(理))、吉岡朋彦准教授(無機バイオ材料工学←東京工業大学)が、平成28年4月には渡邊貴一助教(界面プロセス工学←東京大学生産研)が着任されました。一方、同年4月には押谷潤准教授(粒子・流体プロセス工学→岡山理科大学教授)、吉田幹生助教(粒子・流体プロセス工学→同志社大学准教授)が転出されました。それから、小西敏功助教(無機バイオ材料工学)が平成28年4月から24ヶ月間の予定でシンガポール国立大学へ留学されています。

物質応用化学科と生物機能工学科が統合して生まれた現在の化学生命系学科には、毎年150名近くの新入生を迎え、2年次後期からは「材料・プロセスコース」「合成化学コース」「生命工学コース」の3コースに分かれて専門教育を受けるようになります。今年度で統合して6年目を迎え、化学生命系学科として入学した学生も今では博士前期課程2年生となり、来春には改組した学科からの初めての修士卒学生が社会へと飛び立っていきます。ここ1、2年は就職活動スケジュールの変更により振り回されて来ましたが、幸いにも今年度の

就職状況は非常に好調で多くの学生が希望する企業へ就職している印象です。

学部教育においては、平成28年4月から全国に先駆けて「60分・クォーター制」を導入することとなり、学生は120分講義を15回受講して2単位となることで講義の充実度は増しています。一方で教員の負担は純増していますが、60分講義をして10分の休憩を挟んで2コマ講義を行うといった今までとは違ったリズムは、学生の集中力の持続時間を考えると良い効果も引き出されていると感じます。ただし、ここに至るまでのカリキュラム調整には、副学部長を務める菅誠治教授や教務委員長であった藤井達生教授を初めとして非常に大変な労力がかかっています。

一方、大学院は平成27年4月に化学生命工学専攻が改組され、応用化学専攻と生命医用工学専攻の2専攻となりました。それぞれの専門性を習得した優秀な人材を輩出するべく教育および研究に励んでいます。岡山大学では、文部科学省からスーパーグローバルユニバーシティやリサーチユニバーシティとして認定されたことにより、さらなる海外派遣や受入の促進、国際的な研究大学としてのランクアップが求められており、本学科としてもこれまで以上に論文発表や外部資金獲得などでの研究の質の向上を目指して鋭意努力しているところです。また、1986年に工業化学科を卒業され、現在はペプチドドリーム株式会社を立ち上げてご活躍されておられる東京大学先端科学技術研究センター菅裕明教授からは多大なご寄附を頂き、平成27年度より博士後期課程への進学希望者に奨学金を支給する制度がスタートしました。博士後期課程への進学希望者を経済的にサポートする魅力的な制度となっています。この場を借りて御礼申し上げます。

このように本学科では、大学を取り巻く環境の変化に対応して、学科構成やカリキュラムも変化させているところですが、創成期から培われてきた理念や雰囲気は受け継いでいきたいと考えています。秋にはスーパーグローバルホームカミングデーも予定されていますので、本学科にお立ち寄り頂ける際には、これまで本学科を牽引されてこられた先輩諸氏からの視点で、是非ともご指導ご鞭撻頂けましたら幸いに存じます。末筆ではございますが、同窓会員の皆様方のご健康とますますのご発展を学科教職員一同お祈り申し上げます。

## スーパーグローバルホームカミングデイ

### 2016年度 工学部同窓会報告会・懇親会のご案内

岡山大学工学部同窓会では、昨年につき、本年10月22日（土）に「工学部同窓会報告会」と「懇親会」を計画しています。当日は、岡山大学スーパーグローバルホームカミングデイのいろいろな行事、工学部研究室開放等も企画されています。スーパーグローバルホームカミングデイとは「岡山大学の同窓生および教職員OBに、再び岡山大学に足を運んでいただき、大学の近況に触れ、恩師や同窓会、在学生、教職員との交流を深めていただくイベント」です。同窓生OBが主要なゲストです。懐かしい岡山大学の変貌をぜひご覧ください。詳細は工学部と工学部同窓会ホームページを参照ください。この機会に会員相互の懇親を深め、同窓会への一層のご理解を戴ければ幸いです。皆様の奮ってのご参加をお待ちしています。

#### 工学部同窓会報告会

日 時：2016年10月22日（土）、15：30～16：30（受付開始：15：00）

場 所：岡山大学工学部1号館1番教室（本館1階）

- 1) 工学部同窓会の活動と課題について（工学部同窓会代表幹事、他）  
支部活動（関東、関西、岡山）についてもご報告いたします。
- 2) 工学部の最近の活動について（工学部副学部長）
- 3) 大学院自然科学研究科の現状について（大学院自然科学研究科副研究科長）
- 4) 意見交換

#### 工学部同窓会懇親会（17：00～18：30；受付開始16：30）

同窓生と工学部現旧教員を交えた懇親の時をもち、いろいろな情報交換や旧交を温める機会としたいと思います。気軽に参加して下さい。

場 所：南福利施設（ピーチユニオン4階）

懇親会費：2,000円（含アルコール：工学部同窓会報告会受付にてお支払いください）

なお、準備の都合上、懇親会参加希望者は10月7日（水）までに同窓会事務局（ofst@okayama-u.ac.jp）まで、学科、卒業年、氏名等をご連絡下さい。また、ご質問等も事務局へご連絡下さい。



2015年度 工学部同窓会報告会(2015.10.17)



懇親会（ピーチユニオン）

#### 化学系同窓会(工化会)、生物機能工学同窓会 合同総会開催のご案内

日 時：2016年10月22日（土）、14：00～15：00（受付開始：13：30）

場 所：岡山大学工学部1号館 第2講義室（本館1階）

議 題：化学生命系学科同窓会（仮称）の設立について

同窓生の皆さま方のご参加をお待ちしております。

# 2015年度 工学部学科同窓会活動報告

岡山大学ホームカミングデイでの報告 2015.10.17

## 機械システム系学科同窓会

### 機械システム系学科同窓会活動報告

**役員**

- ・学外幹事 尾崎 公一(H25卒)、和田 弥太郎(H12卒)
- ・報告者 大西 孝(H18卒、学内幹事)、永井 伊作(H7卒、学内幹事)

**活動概要**

1. 両コース共同の新入生に対する入会案内
2. 現役学生への支援  
機械工学コース:「機械系エンジニアの歩き方」の後援  
システム工学コース: 学習環境、就活環境向上のための寄贈
3. 卒業生による同窓会開催への支援

### 2. 学習環境、就活環境向上のための寄贈



液晶プロジェクター、スクリーン

**現役学生のための寄贈活動**

- 超短焦点型 液晶プロジェクターとスクリーンを2式寄贈(2013年12月)
- 就職情報掲示のための掲示板(2015年7月)

### 1. 「機械系エンジニアの歩き方」の後援

- ・機械系卒業生が多い、在学生への助言も含めて企業を紹介
- ・同窓会主催の懇親会を開催し、相互交流の機会アップ
- ・卒業生と在学生をつなぎ、両者の役に立てる企画

年度	企業数
平成19年度	100社
平成20年度	91社
平成21年度	88社
平成22年度	97社
平成23年度	101社
平成24年度	100社
平成25年度	100社
平成26年度	100社
平成27年度	89社

懇親会で企業の方の話を聞く在学生

和やかな雰囲気  
の企業交流会

※本年度の実施予定:平成28年1月15日(金) ビュアリティまきび

## 電気通信系学科同窓会

### 電気通信系学科同窓会活動報告

**活動概要**

1. 学生の就職活動への支援
2. 同窓会等開催補助

### 1. 学生の就職活動への支援

#### (1) 就活生と卒業生の懇親会

日時: 2015年2月10日(火)

場所: 大学生協食堂 ビーチユニオン

参加した同窓会員: 企業より22名(18社)、学生100名

内容: 企業説明

- ・ ビュフェ形式の食事しながら学生が各社のテーブルを訪問
- ・ 幅広い企業について詳しく情報を得られた by 学生
- ・ 一助の企業説明会より熱心に説明を聞いてもらえた by 卒業生

### (2) キャリア形成のための意見交換会

- ・ 就職活動準備前(前)に学内で開催
- ・ 電気通信系学科卒業生が来学し、在学生へアドバイス
- ・ 会社の業務内容や経験について具体的な情報を聞いた
- ・ 一助の説明会では聞けない本音を聞いた
- ・ 先輩たちの就活体験談を聞いて参考になった

年度	卒業生数	参加者
2010	4名	49名
2011	4名	21名
2012	10名	23名
2013	6名	19名
2014	7名	39名

※2010-2013年度は1月に開催、2014年度は10月にホームカミングデイで開催

### 2. 同窓会等開催補助

学科同窓会、同期会等を開催するための資金を補助している。

補助実績

年度	件数
平成22年度	3件
平成23年度	2件
平成24年度	5件
平成25年度	3件
平成25年度	3件
平成27年度	7件 (予定を含む)

## 情報系学科同窓会

### 情報系学科同窓会活動報告

情報系学科助教 新妻弘康

**役員**

- ・幹事(外) 池本 文典(内山工業(株)、平3卒)
- ・幹事(内) 後藤 佑介(平17卒)

**活動概要**

1. 情報系学科ホームカミングデイの活動報告
2. 情報系学科同窓会(情報工学会)の活動

### 1. 情報系学科ホームカミングデイの活動報告

- 研究室訪問: 教員と情報系学科OBとの交流の場
- 研究紹介イベント: ポスター形式で研究室の活動内容を紹介
- 「OB、現役生、教員の交流イベント」
- ・ 情報系学科長による学科紹介
- ・ 情報工学科OBによる講演会(後野 隆輔 氏、(株)DAN、平5卒)



講演会の情報系学科イベントの様子  
(左)講演会、岡山 芝志 氏(株式会社芝志堂、平11卒)、(右)会場の様子

### 2. 情報系学科同窓会(情報工学会)の活動

- 工学部同窓会ホームページ内のコンテンツの充実  
<http://www.eng.okayama-u.ac.jp/alumni/index.htm>
- 展示用ボードの購入
  - ・ 学内のポスター発表会用
  - ・ 本日実施の研究紹介イベントで使用
- 情報系学科のトピック
  - ・ SPing-8SACLA施設見学ツアー(2015年9月29日)
  - ・ 情報系学科3年生の授業の一環で実施

## 化学系学科同窓会、生物機能工学科同窓会

### 化学系学科同窓会活動報告

**役員**

- ・会長 楠木 清介(昭56卒)(平成24年度から)
- ・報告者 内田 哲也(平成4卒)幹事(学内)

**活動概要**

1. 新しい世代に期待する化学セミナー(講演会、卒業生の懇親会)
2. 卒業記念集合写真の撮影と配布(平成21年度から実施)

### 2. 卒業記念集合写真の撮影と配布(平成21年度以降)

- ・ 卒業記念集合写真(学生と職員)の撮影と配布



平成24年度卒業生、平成23年度卒業生、平成22年度卒業生、平成21年度卒業生、平成20年度卒業生、平成19年度卒業生、平成18年度卒業生、平成17年度卒業生、平成16年度卒業生、平成15年度卒業生、平成14年度卒業生、平成13年度卒業生、平成12年度卒業生、平成11年度卒業生、平成10年度卒業生、平成9年度卒業生、平成8年度卒業生、平成7年度卒業生、平成6年度卒業生、平成5年度卒業生、平成4年度卒業生、平成3年度卒業生、平成2年度卒業生、平成1年度卒業生、平成0年度卒業生

### 旧・生物機能工学科同窓会活動報告

**役員**

- ・会長 二見澤 一郎(学内幹事)
- ・報告者

**活動概要**

- 卒業記念写真の撮影
- 春編定学級での44周年
- 生物機能工学科同窓会(平成20年5月)



OBの卒業記念撮影(今年で終了)

## 職 場 紹 介

三菱電機株式会社 福山製作所  
スマートメーター製造部  
スマートメーター品質保証課 スマートメーター品証係

**谷道 あゆみ**

平成24年3月自然科学研究科 電子情報システム工学専攻修了



私は2006年に岡山大学工学部通信ネットワーク工学科に入学し、その後大学院自然科学研究科電子情報システム工学専攻へ進学・修了した後、2012年に三菱電機株式会社

（以下、三菱電機）へ入社しました。

私が勤務している三菱電機は1921年に創業しており、東京オリンピックが開催される2020年に創業100周年を迎える歴史を持った会社です。事業分野は多岐に渡っており「家電から宇宙まで」と言われるように民生用家電製品から気象衛星の開発から設計まで幅広い分野のものづくりで社会を根底から支えている総合家電メーカーです。

私は三菱電機福山製作所（広島県福山市）のスマートメーター製造部スマートメーター品質保証課に所属しています。福山製作所では遮断器や計測制御機器、電力量計、燃料ポンプの開発及び製造を行っています。スマートメーター製造部は2015年に新設された部署であり、今後の福山製作所の主要事業となる製品です。三菱電機は全体として大学時代に電気を専攻していた技術者が多数を占めていますが、機械分野や材料工学等、多分野の技術者が集まりさまざまな視点で製品の生産活動を行っています。

スマートメーター品質保証課ではスマートメーターや電子式電力量計の品質保証業務を担当しており、新製品の開発評価から、量産ラインでの品質確保及び市場出荷後の顧客対応等、幅広い業務を行っています。スマートメーターとは従来の電子式電力量計に通信機能や開閉機能を負荷した電子式電力量計のことで、30分毎の電力量が取得可

能といった特徴を持っています。主に電力会社向けに納入していますが、一部市販向けとして高圧一括受電マンション向けにも納入しています。本格量産が2014年から開始されましたが、すでに100万台を超えるスマートメーターを出荷しています。

私のこれまでの仕事の経歴としては、入社後に約2ヶ月間新入社員研修を受けた後、現在の部署にてOJT(On-the-job Training)の中でスマートメーターの品質保証業務に従事し、品質保証部門での仕事のやり方を学んできました。現在も同部署にて主に製造工程内の品質担保に関する業務に従事しています。

スマートメーターをはじめとする電力量計は需要家のお宅（屋外）に10年間設置されるものであり、また電気料金の取引に使用されるため高精度の電力計測が要求されています。見た目は箱型で電気使用量が表示されているだけですが、中身は多数の電子部品や構造部品で構成されています。製品の品質は掛け算であり、ひとつでも要求品質を満たさない部品があると、製品としてお客様が要求される品質を満足することができなくなります。生産前のメーカー選定から、実際に工場監査として現場へ出向き品質指導を行うこともあります。量産後の品質状況の確認も行いますので、デスクワークだけでなくまずは製造現場で現物を確認するよう心がけています。

これから就職される方々へのメッセージですが、皆様が普段目にする完成品である最終製品だけでなく、製造過程やそれを支えている仕事について創造しながら就職先や業種を探すことをお勧めします。

最後になりましたが、三菱電機にご関心をお持ちいただけた方々とお会いできる日を楽しみにしております。

オークマ株式会社  
研究開発部

## 曾我部 英介

平成24年3月自然科学研究科 機械システム工学専攻修了



私は2012年4月にオークマ株式会社（以下、オークマと称す）に入社し、研究開発部で工作機械の高精度化に関する業務を行っています。

オークマは工作機械を製造・販売している会社で、100年を超える歴史をもつ老舗メーカーです。工作機械とは金属などの素材を所定の形状に刃物で加工し、世の中の様々な部品を作る機械であり、機械を作る機械「マザーマシン」ともいわれています。私たちが日頃何気なく乗っている車や航空機の部品をはじめ、カメラなどの精密部品まで工作機械で加工しています。大きいものから小さい精密なものまで、多種多様な部品を加工するため、工作機械には $1\mu\text{m}$ （髪の毛の100分の1）以下で刃物を正確に動かす高い精度が必要です。

私の業務では、工作機械に必要な精度を脅かす1つの要因である構造体の熱変位を対象としており、それを抑制する技術開発を行っています。工作機械の構造体は主に鋳物を使用していますが、鋳物の線膨張係数は $10.5 \times 10^{-6}/^{\circ}\text{C}$ であり、100mmで温度が $1^{\circ}\text{C}$ 変わると $1\mu\text{m}$ の熱変位が生じます。工作機械が使用される工場では室温が1日で $8^{\circ}\text{C}$ 変わる場合もあり、様々な環境でも熱変位を安定させる技術が差別化につながります。

実業務では様々な環境でも工作機械の熱変位を安定させる構造体の形状や熱変位補償方法を理論的に検討し、実機で確認、製品適用というアプローチで開発を行っています。研究開発では問題解決などで使用するPDCAサイクル（Plan⇒Do⇒Check⇒Action）だけでなく、まずSee（現象把握）⇒Think（理論構築）をしっかりと行うことが重要であり、それを身につけるために日々精進しています。学生の方々は日常でみる物の動きや研究中に起きた現象をしっかりと

見て(See)、数式で整理してみてください(Think)。意外と「そういうことだったの?」とか「面白い!」と感じることがあると思います。その経験は技術者として、今後大きな糧になります。

最後に、これから就職活動をされる方々へメッセージがあります。自分がやりたいこと（漠然としてもよい）を考え、それを達成できる就職先を選択していただければと思います。私の場合、学生時代に工作機械のATC（自動工具交換装置）の動作や高速加工を見て、純粋に「凄い!」と思い、工作機械に関わる仕事に就きたいと思いました。その後、大学院で加工に関する研究をしながら、よりよい工作機械をつくり、世界の生産を変えたいと考え、オークマに入社しました。就職活動される方々も、一度自分自身を見つめ直し、やりたいことを考えてみると、就職試験の面接でも、ありのままの言葉で想いを伝えることができると考えます。もし、オークマに入社することになれば、共によりよい工作機械を目指して技術開発していきましょう。



## 工学部同窓会岡山支部活動報告

岡山支部 支部長 酒井 貴志

2014年8月30日に、工学部同窓会岡山支部が設立され、ほぼ2年が経過しました。岡山地区とその周辺を中心としたOBの方々を対象にご案内を送り活動してきましたが、研究室や学科を超えての友人を作り、交流を深める良い機会となっています。支部の活動目的は、主として(1)親睦、(2)地域、企業、社会への貢献、(3)工学部の活動支援としていますが、支部としての組織づくりと活動が少しずつ形になってきたところです。

2015年の会報以降の主要な活動は、(1)岡山支部総会・OB講演会・懇親会の開催(H27年8月10日)、(2)岡山支部同窓会員の人材活用を進める上での名簿整備と人材バンクへの登録勧誘、(3)月例の幹事会、親睦会の開催、(4)H27年度工学部・経済学部共同企画の講義「実践コミュニケーション論」への講師派遣、(5)岡山大学ホームカミングデイへの参加、協力(10月17日)、(6)忘年会(12月21日)、(7)機械工学系3年生へのOB講演(H28年2月10日)(8)H28年度経済学部「ものづくり経営論」講座への講師派遣、(9)岡山支部園遊会(後楽園)・親睦会の開催(4月28日)、(10)月刊のメールマガジンの発行などが挙げられます。(4)の講義は、28年度も計画されています。これらに並行して、支部ホームページの充実も図られていますのでぜひとも訪問して下さい(HP:<https://okayama-u.sakura.ne.jp/home/>、パスワード:okadaieng)。上記、支部総会でのOB講演会では、大久保浩司氏(元大手商社勤務、機械工学科、昭和39年卒)に、「アラブの話題——チュニジア・これからのイスラム——」との演題で体験に基づいた講演をして頂き、大変好評を得ました。今後もこうした企画で、良い刺激を受けたいと思います。

平成28年度支部総会は、来る9月3日(土)13:30から岡山大学工学部1号館一階大会議室での開催が予定されており、OB講演会は、平成27年秋の叙勲・褒章において旭日双光章(弁理士業務功労)を授章された板谷康夫氏(電気工学科、昭和43年卒)にお願いしています(本会報での紹介記事参照)。また、同日16時から、ピーチユニオン4階で懇親会がありますので、支部内外の皆様の奮ってのご参加をお待ちしています(詳細HP)。支部会員の方々には改めてご案内いたします。

以上のように、岡山支部は活動を踏み出したところですが、今後、皆様からの一層幅広いご賛同が得られる支部にしていきたいと思っていますので、ご支援よろしくお願い致します。



H27年8月29日 講演会 大久保浩司氏



総会・講演会后、工学部玄関前にて



H27年8月29日 懇親会、ピーチユニオンにて



H28年4月28日 園遊会、岡山後楽園にて

## 工学部同窓会岡山支部総会・OB講演会・懇親会のご案内

総会日時：2016年9月3日（土）、13：30-16：00（受付開始：13：00）

場 所：岡山大学工学部大会議室（工学部1号館1階）

議 題：活動報告、会計報告、役員改選

OB講演会：講演者 板谷 康夫 氏

（昭和43年電気工学科卒、平成27年秋：旭日双光章（弁理士業務功労）授章、本会報に紹介記事あり）

題 目 「特許それは事業経営そのもの」

要 旨 「事業が特許などの知的財産権は、事業経営の強みをバックアップするための武器であることを頭では分かっている、それを実践している事業経営者はそんなに多くない。我が国は、IT技術の革新により、部品の汎用化、ブラックボックス化、経済のグローバル化が進んだ結果、最先端技術はガラパゴス化し、アジアや欧米企業の後塵を拝するようになった。多くの事業体での知財戦略が、後進に対して武器となり得るものになっていなかったのか、知財戦略の有り方を考察したい。」

弁理士業務内容に留まらず、歩んでこられた人生を幅広く語っていただきます。

懇 親 会：総会后 16：00-18：00 岡山大学生協レストラン ピーチユニオン 4階

会 費：3,000円（アルコール付、当日集金）

岡山地区に限らず、同窓生皆様のご参加を歓迎します。参加のご連絡は、8月22日までに、メール（工学部同窓会事務局：ofst@okayama-u.ac.jp）又は、別送の「はがき」にてお願いします。

## 工学部同窓会関西支部活動報告

関西支部 支部長 真鍋 健次（電気6期）

岡山大学工学部同窓会関西支部は一昨年10月の設立総会を開催以来、昨年度末までに7回の支部同窓会を開催しました。

昨年度は、6月に兵庫県で初めての同窓会を宝塚市で開催し、29名の参加者がありました。7月7日に関西支部総会を大阪駅前、岡山大学法・文・経済学部同窓会大阪支部と合同で開催し、工学部同窓会から17名が参加しました。

その後、昨年11月28日に大阪府池田市で忘年懇親会を行い、その席上で関西支部長が決定しました。また、昭和43年電気工学科卒業の板谷康夫氏から「旭日双光章」の叙勲・褒章を受けたとの報告がありましたので、今年3月12日に板谷氏の報告会を兼ねて、大阪市内で新春懇親会を開催しました。

設立総会から7度の同窓会開催で、延出席者は130名を越えました。そこで、今年度は平成28年7月2日（土）に大阪市内のエル・おおさか（大阪府立労働センター）で、岡山大学工学部同窓会関西支部総会を単独で開催の予定です。

本同窓会活動により、各期各学科の卒業生の旧交を温めるとともに、地域の活性化、異業種交流や自己啓発などへの発展を期待しています。

工学部同窓会関西支部の活動状況は、岡山大学工学部同窓会のHPにも掲載しています。関西支部についての問合せは、次のアドレスをお願いします。



忘年懇親会（2015.11.28）

連絡先 難波 義久（機械4期） y.namba@gaia.eonet.ne.jp  
 村上 有司（工化7期） nxkt62448@nike.eonet.ne.jp  
 大賀 享（生機10期） ohga@noritz.co.jp  
 本郷 徹（合化3期） t.hongo@hera.eonet.ne.jp  
 大森 勝（電気2期） momoritakatsuki0822@gmail.com

## 工学部同窓会関東支部活動報告

関東支部 支部長 笹川廣太郎

はじめまして。笹川廣太郎と申します。

生産機械工学科を昭和50年3月に卒業しました。

数年前から関東支部の会合に参加したのがきっかけで今回、支部長（幹事）を

昭和39年工業化学科卒 坂東靖夫様、

昭和40年工業化学科卒 藤澤芳朗様、

昭和42年電気工学科卒 原田正憲様、他から

引き継ぎました。同じく、電子工学科を昭和50年3月卒業の向鶴隆さん、情報工学科を平成8年3月卒業の木之下浩二さんと3名で幹事団として今後活動させていただきます。

組織運営もまだ理解しきれていませんが、よろしくご指導・ご支援のほどお願い申し上げます。

前幹事の先輩諸兄の皆様はたいへん母校愛が強く、その情熱をなんとか次世代に引き継がねばとの思いです。

さて、私たちが岡山大学で学び社会人として活動始めた高度成長期を経て1989年をピークにバブル経済が崩壊し低成長、デフレの時代が長期にわたり日本の社会は低迷しています。

アベノミクス効果で経済も浮上しつつあるようですが、グローバルではデフレ傾向であり、さらに、ポスト・ポスト冷戦のパワーポリティクスがますます世界を混迷化しています。

そのような状況下、グローバルな競争社会で日本がふたたび繁栄するにはイノベーションが不可欠です。

イノベーションは業際の連携に多くのヒントがありそうです。

いつのまにか国立大学も民営化され、付加価値を生まない組織団体は淘汰されるでしょう。

優秀な学生がグローバル環境下で集まり最先端の研究と社会への貢献が出来なければ大学の価値は低下し大学間の競争で統廃合され、我々の学び舎、岡山大学も消滅するかもしれません。

良き伝統と文化を次世代に継承し、素晴らしい人材が集まり、民・官・学が連携し、多くの産業でイノベーションが育つ活気あふれる大学として岡山大学が著名になる事が不可欠です。

今後は総合大学も資金力が極めて重要になります。

そのためには私たち卒業生による岡山大学 Alumni(全学同窓会)への参加意識と応援・声援が重要です。

日々の仕事で超多忙な卒業生にとっても母校が社会的に発展することは様々な効果と付加価値が得られると信じています。

あらゆる機会を通して岡山大学 Alumniという組織を宣伝できればと思います。

今年も7月に全学同窓会が開催予定ですが工学部同窓会幹事の皆様を支えて頑張ります。

## 平成27年秋の叙勲・褒章を授章して

昭和43年岡山大学工学部電気工学科卒 板谷 康夫

平成27年秋の叙勲・褒章において旭日双光章（弁理士業務功労）を授章し、身に余る光栄でございます。これも偏に関係者のご指導ご支援の賜物と感謝申し上げます。また、多くの皆様から祝意を賜り、感激致しました。

私は、岡山大学卒業後、就職した企業（パナソニック株式会社）において志願した知財部門で仕事を始めて以来、企業と特許事務所での知財一筋で過ごしました。企業勤務時代に弁理士資格を取得し、その後、企業を退職し、特許事務所を設立し、現在に至っています。その間、仕事の傍ら、日本弁理士会の常議員、副会長、各種委員会委員等や、日本弁理士会近畿支部の支部長等を歴任する機会が与えられました。また、各種講演会の講師や、大学での講師（知財授業）等も務めてまいりました。

少しでも社会のため、人のため、になればとの思いで、いつも楽しみながら、各種活動を進めてまいりました。いろいろな分野で多くの方が社会一般のために奉仕し、貢献することが、我が国の産業・文化の発展に繋がるのではないかと思います。今後は後進の育成に少しでも貢献できればと思っています。

以上、授章のご報告とさせていただきます。



## [新任教員の紹介]

### ○27年10月1日付け就任

- ・大学院自然科学研究科 (工) (電気通信系学科)  
JST さきがけ専任研究員  
東京工業大学応用セラミックス研究所特別研究員

助教 羽田 真毅

### ○27年10月16日付け就任

- ・大学院自然科学研究科 (工) (電気通信系学科)  
神戸大学工学研究科 助教

准教授 栗林 稔

### ○27年12月1日付け就任

- ・大学院自然科学研究科 (工) (機械システム系学科)  
東京農工大学工学部 助教

講師 中村 幸紀

### ○28年3月1日付け就任

- ・大学院自然科学研究科 (工) (電気通信系学科)  
大阪大学核物理研究センター 特任助教

准教授 植田 浩史

### ○28年4月1日付け就任

- ・大学院自然科学研究科 (工) (化学生命系学科)  
東京大学生産技術研究所 特任研究員

助教 渡邊 貴一

- ・大学院自然科学研究科 (工) (電気通信系学科)  
日本電信電話株式会社 NTT 未来ねっと研究所 部長

教授 上原 一浩

- ・大学院自然科学研究科 (工) (機械システム系学科)  
東北大学金属材料研究所 研究員

助教 李 允碩

- ・大学院自然科学研究科 (工) (機械システム系学科)  
日本学術振興会特別研究員

助教 崎山 朋子

- ・大学院自然科学研究科 (工) (機械システム系学科)  
九州大学カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所熱科学研究部門 学術研究員

助教 山田 寛

## [昇任教員の紹介]

### ○28年4月1日付け昇任

- ・大学院自然科学研究科 (工) (機械システム系学科)  
大学院自然科学研究科 (工) 准教授

教授 大橋 一仁

## [定年、転出、退職教職員の紹介]

### ○28年3月31日付け退職

- ・大学院自然科学研究科 (工) (機械システム系学科)

准教授 皿井 孝明

- ・大学院自然科学研究科 (工) (化学生命系学科)  
岡山理科大学工学部 教授

准教授 押谷 潤

- ・大学院自然科学研究科 (工) (電気通信系学科)

教授 秦 正治

- ・大学院自然科学研究科 (工) (化学生命系学科)  
同志社大学理工学部 准教授

助教 吉田 幹生

- ・大学院自然科学研究科 (工) (機械システム系学科)

川崎医療短期大学 放射線技術科 准教授

助教 矢納 陽

### ○28年5月31日付け退職

- ・大学院自然科学研究科 (工) (機械システム系学科)

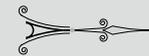
教授 山崎 謙治







## 同窓会会計報告 (平成27年度)



### 一般会計

### 収支計算書

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差異	備考
<b>I. 収入の部</b>				
1. 入会金収入 会費収入	3,040,000	4,029,370	△989,370	403名 { @10,000×397名 @9,870×3名 @9,920×3名
2. 寄附金収入 寄附金収入	813,000	715,440	97,560	405人、759口
3. 雑収入 受取利息	100,000	115,661	△15,661	普通、郵貯、有価証券
同窓会名簿代	0	5,000	△5,000	1冊
雑収入	0	0	0	
当期収入合計(A)	3,953,000	4,865,471	△912,471	
前期繰越収支差額	6,457,925	6,457,925	0	
収入合計(B)	10,410,925	11,323,396	△912,471	
<b>II. 支出の部</b>				
1. 事業費	3,161,000	2,917,647	243,353	
通信運搬費	1,012,000	964,024	47,976	会報郵送料外
会議費	200,000	74,156	125,844	学科連絡委員会外
旅費交通費	100,000	90,960	9,040	関東支部同窓会
印刷製本費	1,319,000	1,261,596	57,404	会報印刷代外
消耗品費	10,000	9,945	55	用紙外
助成金支出	450,000	455,886	△5,886	関西支部同窓会外
同窓会活性化経費	60,000	60,000	0	ホームページ作成
雑費	10,000	1,080	8,920	振込手数料
2. 学科事業費	1,737,000	732,000	1,005,000	
学科配分会費	1,737,000	732,000	1,005,000	244名 @3,000
3. 管理費	400,000	400,000	0	
業務委託費	400,000	400,000	0	(公財) 岡山工学振興会
当期支出合計(C)	5,298,000	4,049,647	1,248,353	
当期収支差額(A)-(C)	△1,345,000	815,824	△2,160,824	
次期繰越収支差額(B)-(C)	5,112,925	7,273,749	△2,160,824	

### 基金特別会計

### 収支計算書

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

(単位：円)

科目	決算額	備考
<b>I. 収入の部</b>		
1. 雑収入 受取利息	144,024	有価証券
当期収入合計(A)	144,024	
前期繰越収支差額	2,865,805	
収入合計(B)	3,009,829	
当期支出合計(C)	0	
当期収支差額(A)-(C)	144,024	
次期繰越収支差額(B)-(C)	3,009,829	

工学部同窓会ホームページ <http://www.eng.okayama-u.ac.jp/alumni/index.html>

工学部同窓会ではホームページを通じてみなさまにいろいろな情報をおとどけします。ホームページを充実させるためにみなさまからの情報を募集しています。是非ご協力下さい。

例えばこんな情報を募集しています。

- ・同期会、研究室同窓会、など行事のお知らせ
- ・みなさまの近況
- ・同窓生の方がお持ちのホームページ（リンクさせていただきます）
- ・同窓生による寄稿（エッセイ、旅行記、写真などなんでも構いません）

※なお、情報を提供下さった方には、右写真にあります、「岡山大学グッズ」の中からいずれかを進呈します。

ホームページへのご寄稿、ご要望などはofst@cc.okayama-u.ac.jp宛にお願いします。



## 同窓会事務局より

### 同窓会報への寄稿などのお願い

会員の方々の寄稿、意見等をお寄せくださいますようお願いいたします。  
 ●職場報告：600～1200字程度 ●会員グループ報告：600～1200字程度 ●最近の研究から：1200字まで（図・表を含む）  
 ●会員短信：800字以内（近況、随想、会員や恩師への祝辞、思い出等） ●通信：400字以内

いずれも写真（顔写真あるいは関連写真）を合わせてご提供ください。

なお、いずれの寄稿につきましても、編集幹事一同の判断により、紙面の都合上内容を損なわない範囲で一部を変更、削除させていただくこと、また極端に内容が不都合であるものについては掲載をしないこと、などをさせていただくことがありますので御了承をお願いいたします。

### 支部活動の助成について

次のとおり支部活動を助成します。幹事、あるいは岡山工学振興会内・岡山大学工学部同窓会(086-255-8311)へ御連絡ください。

- (1) 100人程度を超えるような支部が総会、懇親会等の活動を行う場合に助成する。
- (2) 通信連絡に必要な経費として、小野高速印刷(株)を利用した場合等の実費額と180円/人・回のいずれか安価な額を助成する。
- (3) 懇親会等の会合に要する経費として50,000円/会を助成する。

### 寄附のお願い

工学部同窓会は、皆様のお力添えに支えられ今日まで活動を行ってまいりました。今後も活発な同窓会活動を継続するためには財務基盤の強化が急務であるため、昨年度に引き続き会員の皆様に寄附のお願いをすることになりました。寄附は一口1,000円からとさせていただきますが、ご都合に応じ何口でも結構でございます。なお、寄附をお寄せ頂いた会員のお名前、卒業学科（専攻）、卒業年度を会報に掲載させていただきます。

会員の皆様におかれましては、寄附の趣旨にご理解を頂き、引き続きご協力を賜りたくお願い申し上げます。

ご寄附は下記宛でお願いいたします

郵便振替01270-4-5233 岡山大学工学部同窓会

\*通信欄にはご住所、お名前、電話番号、卒業学科（専攻）、卒業年度、会報への氏名掲載の可否をご記入下さい。

### 編 集 後 記

今朝、週間天気予報を見ると明日から1週間雨の予報でした。今年は6月4日の梅雨入り以降雨が降る日が多いですが、まだ暫く梅雨らしい天気が続くようです。私の学生時代は、前期は7月10日頃、つまり梅雨明けの頃から夏休みに入っていました。今では、講義室にはエアコンも完備され7月末まで講義を継続するようになりました。しかし、例えば冷房を入れても人口密度の高い講義室は蒸し暑く、夏季の講義や実験は学生にとっても教員にとっても体力が必要です。今夏は気温が高いとの予報が出ていますが、本会報が発行される頃には猛暑中の講義も終わり、学生は解放感に浸り、教員はお盆までに用務を片付けるべく成績処理等に追われていることと思います。

さて、工学部同窓会報28号の編集も無事終わり発行の運びとなりました。ご多忙のなかご寄稿頂いた皆さま、編集作業にご尽力頂いた同窓会事務局の皆さまに厚く御礼申し上げます。各学科からの活動報告にもありますように、工学部同窓会は毎年いくつかのイベントや活動を行っています。例えば、学科卒業生と現役学生の交流会を開催し、学生と卒業、学生と企業を橋渡しする役割を積極的に担うべく活動をしています。ご存知のとおり、経団連による採用開始時期の変更や昨今の雇用環境の変化もあり、学生にとって就職活動の負荷が大きくなっています。また、企業にとっても採用活動の難しさが増加しているのではないかと思います。同窓会としましては、学生が様々な職業を知り将来の可能性を広げられる機会を提供したいと考えています。併せて、卒業生同士の繋がりを広げる活動もさらに充実させたいと考えています。同窓会員の皆さまには、これまで同窓会の各種活動に対し多くのご理解とご協力を賜りありがとうございます。今後とも引き続きご理解とご協力の程、よろしくお願ひ申し上げます。

学内代表幹事 五百旗頭健吾（電気通信系学科）